

京都市立芸術大学

# 第27回 留学生展

京都市立芸術大学 第27届留学生展  
교도시립예술대학 제27회유학생전  
The 27th INTERNATIONAL STUDENTS EXHIBITION  
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS

2016. 12.11 THU ~ 12.11 SUN  
11:00~19:00 ※12月5日(月)は休館

@KCUA  
— 堀川御池ギャラリー内 —  
京都市立芸術大学ギャラリー・アクア

## 出展作品一覧

制作者名 Name	題名 Title	作品の技法/素材 Material and technique サイズ size 制作年 Production year
出身国 Nationality 所属専攻 Department	作品についての説明 Commentary	

Maklin Ninni

マクリン ニンニ

縁

手びねり/磁土、陶土

H150cm×W100cm×D100cm

2016年

フィンランド Finland

陶磁器  
Ceramics

I am just a child, much too little to wander space and time alone. Still, may I know one day that I chose the right path.

私は小さい、まだ子供だ。一人で時空をさまようのには、まだまだ早い。それにしても、どうかこの道を歩んでよかったと言えますように。

朱 勇進 Joo Yong jin

ジュ ヨンジン

UNTITLE

手織/木材、ロープ、綿糸、羊毛

H186cm×W186cm×D20cm

2016年

韓国 South Korea

染織  
Dyeing and Weaving

線から広がる糸の文様を表現する。一本の線から始まる様々な方向と面を楽しむ。

金 昇賢 Kim Seung Hyun

キム スンヒョン

強いこと、または弱いこと

ミクストメディア

H130cm×W100cm×D130cm

2016年

韓国 South Korea

彫刻  
Sculpture

外国で生活をしている寂しい自分の状況をばれたくないから、強いイメージの兜の後ろに隠れてしまった。

唐 穎倩 Tang Ying Qian

トウ エイセイ

The space in the between

組む/アルミニウム複合板

H90cm×W180cm

2016年

中国 China

環境デザイン  
Environmental Design

私たちは普段、様々な領域に接している。人とモノ、人と自然、モノと空間。自己と他者。つまり、そういった様々な領域と関係性がある。この関係性は線でつながっている。

『人と自然』、『自然と建築』という関係性の研究を追求する目的として、大きく波打っているように感じられる空間表現したいと考えた。中に歩いて移動することで、視線の抜け方とヒカリの表情しながら、五感で『自然と自分』の関係性が感じられように「生える」休憩所となった。

柳 在昊 Yoo Jae Ho  
ユ ジェホ

## glider

2016年

韓国 South Korea  
プロダクト・デザイン  
Product Design

ロングライフデザインという研究テーマで、座面や背もたれを交換しやすい新しい椅子の提案です。パーツを他の形や色に交換して、インテリアや部屋の雰囲気を変化させることができ、人々が物にすぐ感じる「モノに飽きる気持ち」を減らして、モノの使用期間を延長するデザインの提案です。

Mirjam Ala-Rachi  
ミリヤム アララシ

## Leben

オリジナルテクニック、手縫い／和紙、土、ろう、金糸  
H66cm×W66cm 2016年

ドイツ Germany  
染織  
Dyeing and Weaving

制作では自然、生命を感じて、自分の人生を縫っていました。

呉 在現 Oh Jaehyun  
オ ジェヒョン

## Love Bomb 2016

乾漆／漆、麻布、顔料  
H26cm×W30cm×D30cm 2016年

韓国 South Korea  
漆工  
Urushi Lacquering

作品形態の美しさや実用性もある作品を作りたいと思って制作しました。作品内部は空いており、形態はサボテンの上に本当にサボテンを置いて“サボテンの上のサボテン”を表現しました。きれいな表面ではなく、彫刻で彫った感じの少しラフな表面に仕上げました。

黄 倩雯 Silvia Wong  
コウ セイブン

## 蔓延

編み、メッシュ 2016年

中国 China  
染織  
Dyeing and Weaving

分裂、複製、再生、そして他者に絡まって共生しながら、自分の領地を拡張しようとする。植物の生態に驚いて、編み物の構造で表現してみた。

于 楊 Yu Yang  
ウ ヨウ

## HOUSE

紙本着色／岩絵具  
H38cm×W49cm 2016年

中国 China  
日本画  
Nihonga

ドイツに行った時、列車の中からみた家が忘れられず描きました。横切る際の一瞬の、記憶の中にある家です。

王 杰 Wang Jie  
オウ ケツ

## 千手千目観音菩薩

着彩  
H120cm×W60cm 2016年

中国 China  
日本画(模写)  
Nihonga

本主尊は千手観音菩薩です。上方雲気には十方仏陀があり、四天王は菩薩の連座に登り、天龍八部の両側には侍従が仕えています。菩薩は口もとに髭をたくわえ、顔立ち美しく、腰部が細く、容姿は女性のまろやかで艶がある優しさを持っています。この観音の手にはそれぞれ目を持っていたり、あるいは手形を作っていたり、あるいは物を持っていたりします。頭上部は全部で32の顔があり、頂上部分は阿弥陀仏です。これを以て観音は正等正覚を獲得し、修証園通無上至道としました。多くの観音は密かに行き、唐高祖の時に中国に入って来ました。観音の頭上部には26の菩薩の顔とひとつの仏陀の顔があり、それは千手を有し、どの手にも目があるが故、千の目を以て衆生を知っていることができ、またその千の手を以て随時救護可能であり、観音の悲しみ哀れみを存分に発揮しています。

王 中孚 Wang Zhong Fu  
オウ チュウフ

## 地藏菩薩像

紙本彩色  
H101cm×W36.3cm

2016年

中国 China  
日本画  
Nihonga

この地藏菩薩は大肥九九もの上に立って飛来する姿を描いている。左手に宝珠、右手に錫杖という地藏には普通の持ち物であるが、葺下の蓮華座は左右分かれ、さらに色違いになって動きを強調しており、股細身の長身に若やかで秀麗な僧坊が感覚的な魅力を具わらせている。華やかさのそこに沈静した趣を湛えており、鎌倉時代後期の仏画の特色を示している。

Charles F. Antoine  
アントワン チャールズ

## www.cfantoine.com

キャンバスに床の埃、さびの溶液（鉄）、アクリル、  
黒鉛、苔、銀箔  
H150cm×W200cm×D3cm

2016年

米国 America  
油画  
Oil painting

私の制作の中で、二つの反対同士に思われやすい要素が存在します。ひとつは現代建築から取り入れている構造的なラインのドローイングです。もう一つは日本ならではの美しい自然で見られる季節の彩りです。この展示会に出している作品は、淡路島の安藤忠雄作の本福寺に基づいています。本福寺の建築的な構造を絵画表現へ解釈しています。抽象的に流れたりするそれぞれの材料の彩りが、冬を象徴します。

申 セミ Shin Sai mi  
シン セミ

## my road

捺染／化学染料、綿、木  
H4cm×W200cm×D200cm

2016年

韓国 South Korea  
染織  
Dyeing and Weaving

ふだん道を歩く時見られる歩道ブロックが気になり始め、季節、天気、多彩なネオンサインなどの影響によって変化していくブロックの様子を表現してみました。それぞれのブロックは外部の要素を受け入れながら生きていく現代社会の私たちかもしれません。

陸 瑋妮 Lu Wei Ni  
ル ウェイニ

## 木の風景

シルクスクリーン 2点 各 H88cm×W65cm  
写真 H10cm×W14.8cm

2016年

台湾 Taiwan  
版画  
Print making

私は普段、自分にとって“仮想”である手描き／コンピュータードローイングと、“現実”である写真を組み合わせ、本来目に見えない風景を表わしています。写真やドローイングの一部を点線や網点などに置き換えることにより、風景をより不安定で異質な質感で表わしています。今回は森林ではなく、一本の木をモチーフにして制作しました。

徐 子倚 Xu Zi Yi  
ジョ シイ

## 花の矢

金属染め、マクラメ／綿糸、枯れた花

2016年

中国 China  
染織  
Dyeing and Weaving

「生」と「死」の間に、私が生きている。

盧 柔安 Lu Jou An  
ロ ジュウアン

## 霊風

手びねり、酸化焼成  
H53cm×W51cm×D34cm

2016年

台湾 Taiwan  
陶磁器  
Ceramics

この作品は風の流れと雲の形をテーマとして、表面の模様は水の波紋を模倣し、このように生命を表現し、緑は草や樹木を表し、黄色は花壇を表し、銀の色は日光が水の中に反射し、また流れるのを象徴します。人々に水の中や風の中に身を置いているように感じさせ、川はゆっくりと流れるが直線によって流れ、でも急カーブをかける場所で内側の水流は外側の圧力衝撃を受けるため、順調に流れる水を妨げ、転じてまた渦巻きを形成し、そのため風の凝集はぼんやりした雰囲気や旋回し、夢のようなとらえどころない現象です。それは日光の幻覚に消えていく瞬間の感情です。

Mbugha Meni

ムブーガ メニ

0 4 3 / 3 ! , 3 / (PRÉSENCES)

藍絞染／木綿布  
indigo dye on cotton fabric  
H230cm×W320cm

2016年

コンゴ Dem. Rep. of Congo  
染織  
Dyeing and Weaving

Each artwork stands as a result of a composition made by a continuing dialogue between the Artist(Human),the material(natural or not) and at least several material(tools). From that dialogue a shape is made.

That shape's disposition (spirit) viewed by a public will convey and transmit such feelings or emotions which are part of that interaction.

Each pieces of this artwork named (PRÉSENCES) are the result of my first ever experience of dyeing practice with Indigo and Shibori dyeing tecnic.

With a child's soul and emotion, I watched interaction between the dyes and the fabrics; the needles, the tread and the fabric. After all, each steps of the process have conveyed my discovery of indigo and Shibori.

これらの作品は、素材(天然もしくは人工の)や、幾つかの材料(道具)とアーティスト(人間)との継続的な対話から出来たものです。

皆さんの目の前にある作品の形の性質(精神)は、それらの対話の一端で沸き起こる感情や気持ちを伝えています。

"PRÉSENCES"と名付けられたこれらの作品は、私にとって、藍色染料の絞り染めの技法を実践した初めての試みです。

私は、染料や生地、針や締め跡などが互いに作用しあう様子を、無垢な魂と情熱をもって見つめてきました。つまり、藍色染料と絞りについての私の発見を、これらの工程における手順によって表現しているといえるでしょう。

金 旼秀 Kim Minsoo  
キム ミンス

夢見夢見

ロウケツ染ほか／石粉粘土、木綿  
H80cm×W130cm×D130cm

2016年

韓国 South Korea  
染織  
Dyeing and Weaving

猫の夢(ユメ)はいつも夢を見る。

夢の中でユメは人間になって、眠っている自分を見下ろす。

劉 夢儒 Liu Mengru  
リュウ ムジュ

若者

日本画技法による／岩彩、水干絵具、雲肌麻紙  
H100cm×W80.3cm×D3cm

2016年

中国 China  
保存修復  
Conservation

本作は若者自身の目で見えて感じられて、創作してきた。

若者はまだ経験が少ないため、事物を多角的に考えにくい。世の中に誘惑の象徴である花は目を遮られている。一つ目を遮れたら、どのように見えるでしょう。

悪いことやいいこと、どちらが見えるでしょう。

王 夢石 Wang Mengshi  
オウ ムセキ

降魔

日本画技法による／雲肌麻紙、岩絵具、箔など  
H91cm×W65cm×D2.5cm

2016年

中国 China  
保存修復  
Conservation

瞑想するお釈迦さまが悟りを開くのを、邪魔するため、欲望と煩惱の化身である魔神が群がってきた。その悪魔の攻撃を退け、お釈迦さまが悟りを開いたという物語をテーマに描いた。

この昔から受け継がれる伝統的なテーマに、新しい可能性がこれからもあると信じ、現代を舞台にした「仏画」を表現していきたいと思う。

Paulin Tania  
パウリン タニア

インドネシアランド、多様な遊び場。

2016年

インドネシア Indonesia  
環境デザイン  
Environmental Design

インドネシアは様々な王国から建てられ、現在約 490 民族集団が住んでいる。それだけではなく、島々であるインドネシアには住民の習慣はもちろん、言葉も異なることによって、文化や建築物も違う。だが、国は一つ、インドネシア共和国である。インドネシアの地理を 2×2 展示台を使って表現し、その中に民族ごとを表わす建築物や文化を置いている。

## Gabelier Valentin

ガブリエ バロンタン

## 俳句

映像

video work

H80cm×W110cm

2016年

フランス France

構想設計

Concept and Media Planning

This work is a series of videos playing with the fundamental aesthetic concepts of haiku that Bashō translated into sabi, shiori, hosomi and karumi\*.

I first tried to write some of these short poems, but quite obviously I had to trade my pen with a camera. The only things left from the first writings found their place in the titles. Images are left as it has been shot, showing as less as possible to let the viewer free to feel whatever may come through the screen.

It's not about how we see things but more about how we feel them.

\*-sabi: the search of simplicity and the conscience of the alteration that time inflict to things.

-shiori: suggestions that come from the poem without being formally expressed.

-hosomi: the love for humble things and the discover of there beauty.

-karumi: the humour that lighten from seriousness and gravity.

このビデオのシリーズは、芭蕉の俳句における基本理念「寂び」「撓り(しおり)」「細み」「軽み」\*に基づいて作られた。

まず、いくつかの俳句を書いてみたところ、ペンではなくカメラを持つ必要を感じた。

それぞれのビデオのタイトルは、最初に書いた俳句から拾った言葉だ。

映像は、加工をせず、撮られたときの生の状態を保とうとした。

そして、スクリーンに映るものを、自由に感じてもらうため、見せることを極力避けた。

どのように見るかではなく、どのように感じるかが、問題である。

\*寂び = 閑寂でうろおいのある美が、自然に外に、匂い出しているような趣。

撓り = 人事・自然を深い愛情を持って、ながめる作者の繊細な感情が、句の余韻となって滲み出る。

細み = 作者の心が対象の本質をきめ細かに見きわめ、繊細微妙な境地に達している状態。

軽み = 日常的な題材を詠み、しかもさりとした感じが出ている趣。

## 田 玥華 Tien Yueh Hwa

ティエン ユエ ホワ

## スパイスボトル

2016年

台湾 Taiwan

プロダクト・デザイン

Product Design

暑い料理に調味料を加える時、スパイスボトルの中が湿気っていて、調味料が出ずに困った経験があるのではないのでしょうか？ 調味料を加える時に水蒸気はスパイスボトルに入ると、調味料が湿気りカビが生えてしまうので、デザインを改め、簡単な内部構造と形にすることによって、問題を解決できる作品を作りました。

## Anna Sofia Sysser

アンナ ソフィア スッセル

## Ryokōki - Travelogue

映像、ブックレット、インスタレーション

video work, booklet, installation

2016年

フィンランド Finland

構想設計

Concept and Media Planning

I have spent 3 months in Japan: in Kyoto, Shikoku and Okinawa. I would like to share some of my explorations with you.

Fragmented mix of things, thoughts and feelings. Notes on traveling, work, plastic, seas, beaches, nature and human – an experience, multiple experiences, one kind of a collage of these places and times.

Traveling plays an important part in my artistic practice. I have taken along my small camera and felt an urge to make an archive of all the interesting things I found. At the same time I have tried to find out how should life be lived, on a personal and global scale.

Booklet made together with Mikko Piispa, my partner.

私は3ヶ月間の日本滞在中に、京都・四国・沖縄を旅しました。そこでの経験を皆さんと共有したいと思います。

物事、思考、感情、の断片を混ぜ合わせたもの。

旅、仕事、海、浜辺、プラスチック、自然そして人間の記録 一ひとつの経験、多様な経験、それらの場所や時間をコラージュ（合成）したもの。

旅は、私の芸術活動において重要な役割を果たしています。私は小さなカメラを携え、旅で見つけた心惹かれるものすべてを記録したいという思いに駆られました。それと同時に個人的かつ普遍的な規模において「人生をどのように生きていくべきか」という問いに答えを見いだそうとしています。

冊子は、私のパートナーの Mikko Piispa との共同制作です。

交換留学生

アールト大学

Exchange student

from Aalto University

## Raphaël Serres

ラファエル セル

フランス France

版画

Print making

交換留学生

国立高等装飾美術学校  
(ENSAD/アールデコ・パリ)  
Exchange student  
from École nationale supérieure  
des Arts Décoratifs

## Double Lune

2つの月

木材、紙にインク、リトグラフ、銅版、写真など  
wood, Ink on paper, lithographie, copper, photos, ...  
H250cm×W200cm×D100cm 2016年

I'm in Kyoto as a pathfinder, I see the footprints of a giant civilization.  
My work consist on live in a wooden house and go out by the wooden door.  
I stay 5 months in this mountain-country, things have retained my eyes, I use these to  
construct images.

私は探求者として京都に住み、そこで大きな文明の足跡を見いだした。  
私の作品は木造の家に住み、木の扉から出ること成り立つ。  
山に囲まれたこの国に5ヵ月滞在し、この目に物事を焼き付けてきた。私はそれらを使っ  
てイメージを構築する。

Website adress: [raphaelserres.hotglue.me](http://raphaelserres.hotglue.me)

## Louise Collet

ルイーズ コレ

フランス France

日本画

Nihonga

交換留学生

国立高等装飾美術学校  
(ENSAD/アールデコ・パリ)  
Exchange student  
from École nationale supérieure  
des Arts Décoratifs

## Untitled (Dawn)

顔料、アルミ箔  
Pigment, Aluminum sheet  
H61cm×W50cm×D2.5cm 2016年

I had long suspected in my work a mysterious connection with Japanese culture. It is  
quite unsettling to find such a similar echo to my researches on the other side of our  
planet.

An introduction to Nihonga brought me some new reflections, like paying a particular  
attention to materials (natural, perennial and high-quality) and including the preparation  
of colors and canvas in the creative process.

This painting results from a first crossing between my notions of drypoint etching and a  
particular technique of Nihonga, taught by Nishida Sensei.

For the rest, my intentions are still the same.

Always being closer to nature and deep feelings.

昔から、私の作品と日本の文化との間に不思議な繋がりがあるのではないかという気はし  
ていた。これまでの研究との共鳴を地球の反対側で見つけるというのは驚くべきことだ。  
日本画との出会いは、(自然の、恒久的で上質な) 素材に特別な注意を払うことや、調色  
やキャンバスの下準備も制作過程の一部として捉えることなど、いくつかの新しい考え  
方をもたらした。

今回のペインティングは、既に持っていたドライポイントエッチングの観念と、西田先生  
に教わった特定の日本画の技法とを初めて掛け合わせた結果だ。

その他に関しては、今までと同じ意図を持っている。

常に自然と奥深い心情との近くに在ること。

## Jadé Fadojutimi

ジャデ ファドジュティミ

イギリス U.K.

油画

Oil painting

交換留学生

ロイヤル・カレッジ・オブ・アート  
(RCA)

Exchange student  
from Royal College of Art

## The melody of the Yokai

妖怪のメロディー

油彩

oil painting

H130cm×W160cm 2016年

The Melody of the Yokai is a cross between abstract landscape and figurative painting.  
Our lack of sense of self makes us humans vulnerable to romanticising about an  
alternative place. Whether it's of the physical or imaginary world we are in search of a  
sense of an inner and outer harmony. Yokai encompasses this idea acting as a bridge  
between understanding and appreciating the natural world; a unique harmony I want to  
illuminate through the work. The material itself can become intimate and atmospheric  
that invites you to relate to the paint's disposition.

「妖怪のメロディー」は、抽象的な風景と具象絵画の間のもので、どちらともいえないもの  
である。自己感覚の欠如から人間は脆弱になり、ここは違う場所へとロマンティックな  
思いを馳せる。そこが物質的な世界であれ架空の世界であれ、私たちは内と外が調和する  
感覚を求めている。妖怪は自然の世界を理解することと、真価を認めることの間を橋のよ  
うに結びながら、包み込んでいる。素材そのものが親密さや雰囲気を通して、鑑賞者を  
油彩の魅力へと誘い込む。

Website adress: <http://www.jadefadojutimi.com>



Emily Temperton

エミリー テンパートン

FISH:SCALES

2016年

イギリス U.K.

環境デザイン

Environmental Design

交換留学生

ロイヤル・カレッジ・オブ・アート  
(RCA)

Exchange student

from Royal College of Art

Increasing alienation means that food is consumed with a disconnection from it's production processes. We are in a time where the production of fish is shifting. As wild fish stocks decrease, new technologies mean that the supply of farmed fish is overtaking that of wild caught fish.

Aquaculture offers a new perspective on the large scale global systems that affect how we consume fish. As we bring production to our shorelines, new opportunities for shifting cultural productions are created. The infrastructure of aquaculture makes evident the colonisation of our seas; how do we renegotiate coastal territories as they become increasingly contested?

In this work I focus on the Pacific Bluefin Tuna (Kuromaguro); this critically endangered species has been farmed in a full life cycle for the first time at Kindai University. Shifts in scale involve the farming of Bluefin tuna from the microscopic level to the water to the territorial. How does engineering the Kuromaguro at a molecular level start to change coastal cultural histories?

年々増していく隔絶感は、食糧がその製造工程とは切り離された状態で消費されていることを意味している。我々は今、漁業の推移の時代に生きている。収穫できる天然魚が減っていくと同時に新たな技術も発達しており、養殖魚の供給が天然魚のそれを上回りつつある。

水産養殖は、我々の魚の消費の仕方に影響する世界規模のシステムを捉える新しい視点を提供する。製造工程を海岸線に持つてくることによって文化創造に変化をもたらす機会が発生する。水産養殖のインフラストラクチャーには海域の植民地化が見て取れる。領海をめぐる争いがエスカレートしていく中、いかにして再交渉ができるのだろうか？

本作ではクロマグロに焦点を当てている。絶滅の危機に瀕しているクロマグロは、近畿大学によって初めて完全養殖が行われた。スケールの推移には、顕微鏡で見るような微細なレベル、水、領土にわたってクロマグロの養殖が関わっている。顕微鏡の下で始まるクロマグロのエンジニアリングは、海岸線の文化史にどのように作用するのか？

Ilona Broeselske

イローナ ブルーズリスコ

1 0 1 0 1 0 1

磁器

porcelain

2016年

オランダ The Netherlands

陶磁器

Ceramics

交換留学生

ロイヤル・カレッジ・オブ・アート  
(RCA)

Exchange student

from Royal College of Art

Electric Pulse On, Off, On, Off, On, Off, On/ Hi, Bye, Hi, Bye, Hi, Bye, Hi.

Petrified Binary Codes.

電気信号オン、オフ、オン、オフ、オン、オフ、オン／ハイ、バーイ、ハイ、バーイ、ハイ、バーイ、ハイ。

石化した2進コード。